# 平成 29 年度 (2017 年度)

福島大学 FD 活動報告書 ~大学教育改善の追求~



2018年3月

福島大学

#### はじめに

平成29年度(2017年度)の福島大学におけるFD活動の全体を、ここにまとめてご報告いたします。

内容としては、FD 宿泊研修に始まり、各学類・研究科の FD 活動の紹介、アンケートの集計結果等、昨年度とほぼ同様のものとなります。

FDは、広義には、教育のみならず、研究、大学の管理運営、社会貢献、大学教員としてのキャリア開発等、大学教員に求められる資質・能力全般の開発を指しますが、今日では「教育改善」という狭義の意味で用いられることが一般的となっています。

この『福島大学 FD 活動報告書』においても、教育改善に焦点を絞って全学、 及び各学類・研究科の FD 活動を紹介していきます。

『福島大学 FD 報告書』が「報告書」である限りにおいて、それぞれの活動に価値判断を行うことは適切ではないと思われます。他方で、全学、各学類・研究科の多様な FD 活動には、相互に参照・共有すべき素晴らしい取り組みが多数存在しています。

この『福島大学 FD 活動報告書』を通して、福島大学において実践される多様な FD が発掘・共有され、福島大学における教育がより良いものへと改善されていくことを心より願っております。

福島大学教育企画委員会

### 目 次

は	よじめに	1
1	1. FD 宿泊研修	3
2	2. 各学類・研究科における FD 活動	15
	人間発達文化学類	16
	行政政策学類	17
	経済経営学類	18
	共生システム理工学類	19
3	3. 夜間主(現代教養)コースにおける FD 活動	20
5	5. 共通教育における FD 活動	27
6	6. 教育改善のための学生アンケート集計結果	41
	前期集計結果	41
	後期集計結果	61

1. FD 宿泊研修

平成 29 年度 FD 宿泊研修記録

### 平成 28 年度 FD 宿泊研修記録



#### 1. テーマ・趣旨

全体テーマ:新設「問題探求科目」のシラバスを提案する!

趣 旨:FD宿泊研修は学生・職員・教員が一同に会し「大学教育の質の向上」について集中的に話し合うことで、三者協働の大学づくりを推進する取組みです。現在本学は平成31年度(2019年)に実施する方向で新しい教育のあり方を議論している最中です。残り1年半、より一層議論を深め、さらには教育改革方針を具体化していく必要が増してきます。そこで今回のFD宿泊研修では、教育改革に伴い新設される「問題探究科目」に焦点を当て、実効性(&実行性)のあるアイディアを提案することにチャレンジしてみたいと思います! "三人よれば文殊の知恵"と言いますが、是非それぞれの立場から自由に意見を出し合って、立場をこえた真剣な議論を楽しみましょう。

#### 2. 開催日時・場所

日程:9月30日(土)~9月31日(日)

場 所:二本松市 岳温泉 「陽日の郷 あづま館」

#### 3. 参加者

教員:10名(学内:6名、学外:4名)

学 生:18名(学内:14名、学外:4名)

職 員:6名

#### 4. 次第

□ 1日目:9月30日(土)

10:15 福島大学 経済経営学類棟ロータリー前集合 ~送迎バスにて移動~

11:15 「陽日の郷 あづま館」到着

会場:(3F) コンベンションホール「曙」

11:30~12:15 【開会行事】

\*コーディネーター:鈴木学(福島大学 総合教育研究センター)

①開会の挨拶:三浦浩喜(福島大学教育・学生担当副学長)

②研修の流れ、諸注意・事務連絡等

③ウォーミングアップ

12:15~13:15 【昼食】@(3F) コンベンションホール「曙」となり

13:15~14:45 【第1セッション:探求する「問題」を洗い出す】

①材料提供:三浦浩喜(福島大学 教育・学生担当副学長)

②個人ワーク

③グループワーク

14:45~15:00 【休憩】

15:00~16:30 【第2セッション:問題にアプローチする「授業方法」を考案する】

①材料提供:鈴木学(福島大学 総合教育研究センター)

②グループワーク

16:30~18:00 【第3セッション:単位を出すための「評価方法」を設定する】

①材料提供:高森智嗣(福島大学 総合教育研究センター)

②グループワーク~第2セッションの内容と共に~

18:00~19:00 【第4セッション:シラバスに文章で表現する】

(※第2~4セッション中は適宜休憩を挟みます)

19:00~ 【夕食・ビュッフェ形式】@(3F)「ゆいの一楽」

□ 2日目:10月1日(日)

07:00~ 【朝食・ビュッフェ形式】@(3F)「ゆいの一楽」

09:00~10:30 【第5セッション:成果報告】

10:30~11:00 【閉会行事】

①ラップアップ ②閉会の挨拶

③集合写真撮影

11:10頃 「陽日の郷 あづま館」出発 ~送迎バスにて移動~

12:00頃 福島大学 経済経営学類棟ロータリー前到着・解散





#### 5. 成果物

A班~H班の8班分のシラバスは以下の通りです。成果報告時には、オーディエンスの属性に応じてチームを分け、次のような評価観点で提案されたシラバスに対する質問・意見を検討してもらいました。

①教育改革チーム:改革の趣旨を体現しているか?

②ACF教員チーム:客観的に見て「問題探究」の要素を満たしているか?

③教職員混合チーム:学内での実現可能性は高いか?

④若手職員チーム: 将来性を感じる授業は(≒名物になりそうな授業は)?

⑤人文科学分野学生チーム:人文科学を専攻する学生にとって魅力的な授業は?

⑥社会科学分野学生チーム:社会科学を専攻する学生にとって魅力的な授業は?

⑦自然科学分野学生チームA:自然科学を専攻する学生にとって魅力的な授業は?

⑧人文科学分野学生チームB:自然科学を専攻する学生にとって魅力的な授業は?

項目(★は記入必須)	入力欄
★科目名/授業規模	地域課題探求入門
★授業概要・ねらい	東日本大震災の概要や地域の抱える基本的な課題 y を理解し、ゲストスピーカーの話を聞き、関心のあるテーマをグループごとに設定する。 アーマに基づいて資料を収集し、データの整理や比較対象をさせながら、問題の深堀を行い、最後にプレゼンテーションを行って、意見交換を行う。 ねらいは、大学1年生として、問題把握の基本を学び、自分たちの視点で問題を探求すること。
★学習目標	<ol> <li>問題に対する当事者意識を育て、主体的に課題の把握にあたることができる。</li> <li>問題に関連する様々な資料を収集し、それらを整理することで、問題のより深い把握ができる。</li> <li>グループワークを通じて、異なる規点に気づき、課題解決をするためのコミュニケーションができる。</li> </ol>
★授業計画	1.イントロダクション (授業のねらい・計画・ゴールを知る) 2.講義②「原発事故と復興の技術」 5.ガストスピーカー②「被災地の規状を知る」 6.ゲストスピーカー②「被災地の産業、農業、漁業の復興」 7.グループワーク②「テーマの設定、資料の収集、調査計画、分担」 8. グループワーク③「可報のすり合わせ、グループ討論」 9. グループワーク③「中間発表に向けたまとめ、ブレゼンの作成、練習」 10. 中間発表、フィードバック 11. グループワーク④「義料の追加収集、追加調査」 12. グループワーク④「最終まとめ」 13. 最終プレゼン③(ゲストスピーカーが審査) 14. 最終プレゼン②(ゲストスピーカーが審査) 15. 総括と最終レポートの作成
教材・教科書等	
授業以外の学習	
★成績評価の方法	<ol> <li>授業への出席と最終レポートの提出</li> <li>収集した資料の量と読み込み、プレゼンの評価(教員、学生、ゲストS)</li> <li>プレゼンテーションの質疑応答、コメントペーパーの提出、自己評価</li> </ol>
★成績評価の基準	上記方法により、総合的に評価する。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上
オフィスアワー・ 授業外学習の支援等	
その他・特記事項	

## В班

項目 (★は記入必須)	入力機	
★科目名/授業規模	協働探究学習・30人/6人×5グループ	
★授業概要・ねらい	本授業は、問題探究科目の中心理念である「自分で課題を発見し、自分で問題解決のための方法を探る」という能力の育成を 目指すものである。授業では授業者側からグループワークの課題を直接提示することをせず、学生たちがワークショップやグ ループワークを通じて、自ら発見しその課題を探求する。本授業を通じて大学生活において必要となる、課題発見、探究、解決 のプロセスを身につけることを目的する。 なお本授業はクラスが機械的に配けされる必修科目であり多様な専門性、将来の希望を持った学生が混在する。この性質を活 用し、ワークショップやグループワークを通じて多様な考えに触れ、コミュニケーション能力を育成することをも目的としてい る。	
★学習目標	1.自分で課題を発見し学習課題を設定することができる。 2.問題解決のプロセスを身につけ、他者に伝えることができる。 3.他者とコミュニケーションをとりながら、多様な考えを持つことができる。	
★授業計画	第1回 ガイダンス・個人の課題抽出 第2回 全体講義俗学類からマクロな話をしてくれる教員の講義)クラス合同。 第3回 テマ探索 ※あらかじめ決めたグループで話し合いをする。 ※グワークショップを活用して、グループメンバーとして共通するテーマを設定する。 第4回 グループワークのゴール設定 ※ゲーマについて下論へ化てきたうえで、グループワークのゴールを設定する。 第5回 中間カンファレンス1 ※設定したニールをクラス全体で共有する。ワールドカフェ方式ーグループに戻って練り直し。 第6回 グループワーク1 ※ガール設定の妥当性を再検証&グループ内の分担 第7回 グループワーク2 ※グループ内の分指に基づいた共有 第8回 中間カンファレンス2 ※第小学習の選手状況報告 第9回 グループワーク3 ※カンファレンスの反答に基づいて、計画の見直し。 第10回 グループワーク4 ※まとめ方針に関するティスカッション 第11回 中間カンファレンス3 ※まとめ方針に関するティスカッション 第11回 中間カンファレンス3 ※まとめ方針の確認 第12回 グループワーク5 ※まとめ方針の確認 第13回 ボスターセッション 第14回 まとめ・ありかえり 第15回 教員へのプレゼンテーション ※近い分野の教員にボスターを見せフィードバックをもらう。	
教材・教科書等	特になし	
授業以外の学習	授業以外のグループワークが必須。 情報収集、フィールドワークなど調査の具体的な活動は授業時間外で補充する必要がある。	
★成績評価の方法	OPPA(堀2013)=グループワークへの参加、平常点=30% プレゼンテーションのボスター=50% 学生間の相互評価=20% ※相互評価はボスターセッション時の投票による。	
★成績評価の基準	A+=90%以上、A=80%以上、B=70%以上、C=60%以上、D=50%以上、F=50%未满、Fは単位不認定。	
オフィスアワー・授業外学習の支援等		
その他・特記事項		

# C班

項目(★は記入必須)	入力欄
★科目名/授業規模	「問い」を問う・だれでもこいやぁー
★授業概要・ねらい	学ぶことは大学生活が最後ではない。卒業後も長命を全うするまですっと学ぶことになるだろう。 人は考えることをやめたとき衰えるので考えることをやめてはならない。そのためには常日頃様々な場面で「考える」こと、つまり「問い」を見つけて解決を図る能力を身に着けることは大切である。本講義では、問題解決能力への一端と、問いを見つけるための手段の一端を講することを目的とする。
★学習目標	決められた状況の中で課題を設定できる     設定した課題の本質を理解できる     本質を理解したうえで解決を図ることができる     「問い」を見つけるきっかけをつかむことができる
★授業計画	講義は、課題解決学習についてグループワークを併用した進行を行う。 課題は、 1. 放射線問題(どれくらい危険なの?) 2. 高齢者ドライバー問題(問題点と解決すべきこと)とする。 第一回:ガイダンス(問題解決学習をおこなうこととはなにか) グループ学習1(放射線について) (1) 課題の提示とグループ設定 (2) 課題の理解 中時間外学習 (3) 理解の梁化のための特別講義(識者) (4) 解決に向けたまとめ (5) 発表+フィードバック グループ学習2(高齢者ドライバー問題) (1) 課題の提示とグループ設定 (第1回しボート提出:フィードバックを含めた個人レボート) (2) 課題の理解 中時間外学習 (3) 理解の梁化のための特別講義(識者) (4) 解決に向けたまとめ (5) 発表+フィードバック (6) 発表+フィードバック (7) 理題の理解 中時間外学習 (8) 理解の梁化のための特別講義(識者) (4) 解決に向けたまとり (5) 発表+フィードバック (6) 発表+フィードバック 第十四回: 「問い」を見つけるためのきっかけ (第2回レボート提出:フィードバックを含めた個人レボート) 第十四回: 「問い」を見つけるためのきっかけ (第2回レボート提出:フィードバックを含めた個人レボート) 第十四回:
教材・教科書等	
授業以外の学習	
★成績評価の方法	各グループ学習の 1. 問題理解に対する解決策の発表 2. グループ内評価 3. 各個人のまとめたレポート による評価及び、第15回の「問い」に対する解答について総合的に判断する。ただし、表現等により減点される場合もある。
★成績評価の基準	各グループ学習発表・グループ評価・「問い」についての解答をしたうえで、与えられた学習目標について各個人のレポートにより 秀:優の評価に加え、フィードバックに関して独自の考察を行っている 優:良の評価に加え、フィードバックを行ったいる 良:可の評価に加え、独自の考察を加えている 可:目標の考察を行っている とする。
オフィスアワー・授業外学習の支援等	
その他・特記事項	

# D班

項目 (★は記入必須)	入力欄
★科目名/授業規模	現代社会と環境問題/20~30名
★授業概要・ねらい	本授業のねらいは、環境問題の検討を通して、現実社会の課題を探求し解決する力を身につけることにある。 環境問題には、温暖化、砂漠化、酸性雨、生物多様性の消失等グローバルな問題と福島県に固有なローカルなものがある。 本授業では、環境問題に関する基礎切譲を身につけるとともに、外部講師による話題提供を踏まえて学生自身がテーマを設定 し、多様な立場に立ってディベートを行う。 さらに、ディベートの内容を踏まえて、実現可能性を考慮した課題解決方法の提示を目指す。
★学習目標	<ul> <li>現代社会における環境問題についての知識を身につけ、問題の本質を理解することができる。</li> <li>問題についての客観的情報を主体的に収集し、それらを基に多様な立場に立って議論することができる。</li> <li>議論の結果を踏まえて、実現可能な課題解決方法を提示することができる。</li> </ul>
★授業計画	第01回: ガイダンス 第02回: 世界の環境問題 第03回: 福島の環境問題 第04回: 外部講師による話題提供① 第05回: ティペトトテーマ酸① 第06回: ディペトトーマ準備① 第06回: ディペトトの準備② 第08回: ディペトトの準備② 第10回: ディペトト・ 第11回: ディペト・ 第11回: ブレゼンテーションの準備② 第12回: ブレゼンテーションの準備② 第13回: ブレゼンテーションの準備② 第13回: ブレゼンテーション① 第14回: ブレゼンテーション②
教材・教科書等	
授業以外の学習	
★成績評価の方法	・出席点:15点     ・ディベートの準備への参加状況:20点     ・ディベートの準備への参加状況:20点     ・ブレゼンテーションの準備への参加状況:20点     ・ブレゼンテーションの内容:45点
★成績評価の基準	A:優れている(90点以上) B: やや優れている(80~89点) C:望ましい水準に達している(70~79点) D:不合格ではない(60~69点) F:不合格(59点以下)
オフィスアワー・授業外学習の支援等	
その他・特記事項	

## E班

	Te com
項目(★は記入必須)	入力機
★科目名/授業規模	社会の課題解決とキャリア探求
★授業概要・ねらい	まずわれわれを取り巻く社会課題を把握し、現状ではその課題に社会のどのようなプレーヤーが、どのように取り組んでいるかを知る。 その上で、グループワークを通じて、課題解決に向けた自分たちなりのキャリアを探求・構想する。 その上で、グループワークを通じて、課題解決に向けた自分たちなりのキャリアを探求・構想する。 そのことにより、卒業後のキャリアを構想し、今後の学びの意義を発見する。
★学習目標	<ol> <li>われわれを取り巻く社会課題を把握して共有する。</li> <li>キャリアの観点から課題解決の現状を知る。</li> <li>課題解決に同けた自分だちなりのキャリアを探求・構想する。</li> </ol>
★授業計画	1. 授業ガイダンス 2. 社会課題の共有と理解 4. 課題の集争的とグループ分け 5. 課題のこいての解決を調べる 6. 自分だちのキャリアを探求する 2 8. 自分だちのキャリアを探求する 3 9. ゲスト講師まだはフィールドワーク 1 10. ゲスト講師まだはフィールドワーク 2 1 1. 自分だちのキャリアモデルを構想する 1 2. 自分だちのキャリアモデルを構想する 1 2. 自分だちのキャリアモデルを構想する 2 1 3. ブレゼンテーション 1 4. ブレゼンテーション 1 1 5. まとめと講評
教材・教科書等	
授業以外の学習	
★成績評価の方法	
★成績評価の基準	現状を理解した上での、キャリア構想の実行可能性     キャリア構想のアイデア面のインパクト     オープへの責献度     は     個人レポートによる主体性
オフィスアワー・授業外学習の支援等	
その他・特記事項	

## F班

項目(★は記入必須)	入力欄
★科目名/授業規模	楽しく響らせるためのストラテジー学
★授業概要・ねらい	ボジティブ心理学を通して、人との付き合い方を学び、ボジティブな考えを身に着け、グループワークで活用する。そして将来毎日楽しく暮らすための知識と技術を獲得することを目的としている。大学でなければ経験できない講義を受講することができる。本講義には社会で活躍する人物がゲストスピーカーとして参加する。その実践内容や問題解決法を聴講することができる。
★学習目標	<ul><li>Ⅰ身近な問題について考える力を身に着ける。</li><li>Ⅱ将来のライフタスクに応じてそのために必要な知識と技術を獲得する。</li><li>Ⅲ日々の生活を安心して過ごせる知識と技術を身に着ける。</li></ul>
★授業計画	1 ボジティブ心理学 1 心理テスト、心理学者による「ボジティブ心理学」についての授業(皿の講義までに身近な社会問題を考えておくこと) 2 心理テスト、心理学者による「ボジティブ心理学」についての授業(皿の講義までに身近な社会問題を考えておくこと) 3 アンガーマネジメント (攻撃的な人への対処法、怒りをコントロールする値を身につける) 4 まとめ、事後評価 II 自己危機マネジメント 5 災害時の対処方法を〇×形式のクイズで問い、事例をまとめたビデオ学習 6 医師や看護師による骨折や火傷の対象法、その実演と演習を行う 7 まとめ、事後評価 II 問題提起とアプローチスキル 8 身近な社会問題(原子力弁電・地域格差・北朔鮮問題など学生からの意見に基づいた問題)の提案 9 グループリークを通じて問題の優先順位を決定 1 0 発表の中から2 つの問題を取り上げて、全体で問題を深める 1 1 問題1にどう対処するか、解決策をグループ内で意見を固める 1 2 問題 にどう対処するか、解決策をグループ内で意見を固める 1 3 問題1 のフレビンテーションを行い専門家から評価をうける 1 4 問題のプレビンテーションを行い専門家から評価をうける 1 5 まとめ、事後評価
教材・教科書等	
授業以外の学習	身近な問題に対するグループワークについては各自で考えて発表できる状態にしておくこと 提案した問題に対する解決へのアプローチ
★成績評価の方法	1.グループワーク活動とプレゼンテーション、ボートフォリオでの評価 2.受講前後のレボート提出(心理テストの分析)、心理学者による自己評価と他者評価の相違点 3.演習への参加、演習後のレボート 上記はループリック評価を用いて点数化する
★成績評価の基準	A80点以上 B,70点以上 C,60点以上 D,50点以上 F,50点以下
オフィスアワー・授業外学習の支援等	
その他・特記事項	その領域の専門家(第一線で活躍する人)をゲストスピーカーとして招聘する(教員の人脈を使う) 提出したレポートは教員の評価後に各学生に返却する。

# G班

項目 (★付記 1 必須)	入力機
項目(★は記入必須) ★科目名/授業規模	大力機   地域協働社会のデザイン / 30人定員
★授業概要・ねらい	現在、日本全体の人口減少が問題となっており、中でも福島県がその先駆けとなっている。地方創生が叫ばれてはいるが、現実とのギャップが指摘されている。そこでこの授業では、(1)地域の現状を把握し、地方創生が進んでいない原因を分析し、(2)地方創生のための課題を発見、把握し、(3)課題解決のための未来志向の提案する能力を身につけることを招与いとする。
★学習目標	この授業を履修することで、学生は (1)地方創生に関する地域のニーズや志向性、地方創生が進んでいない原因を分析することができる。 (2)地方創生のための課題を発見、把握し、誰にでもわかるように説明できる。 (3)課題解決のため、未来志向の、地域活性化が図れる提案をまとめ、わかりやすく発表できる。
★授業計画	1.オリエンテーション (グループ分けのアンケートを含む) 2地方創生とは 3.現状已腰の方法を学ぶ 4.フィールドワークの準備② (課外のフィールドワークの準備② (ア・ルドワークの準備② (ア・ルドワークの事情) (ア・ルドワークを留えた原因分析 アフィールドワークからの課題発見 8.遅楽評価に向けたルーブリック評価シート作成 9.提案 ブミッのグループリック評価シート作成 9.担案 ブミッのグループワーク② 11.スライド作成の準備 12.スライド作成の準備 12.スライド作成 13.発表会② 13.発表会② 15.全体の振り返り
教材・教科書等	
授業以外の学習	最低2か所のフィールドワークを課外時間に行ってもらいます。
★成績評価の方法	<評価の条件> 全授集の2/3以上の出席を評価の必須条件とします。 <評価方法> 1. フィールドワークのレボート (30%) 2. 発表の内容とわかりやすさ (60%) 3. 発表に対するフィードバックへの貢献 (10%)
★成績評価の基準	フィールドワークのレポート (30%) A: 現状把握がすべての項目において高い水準に達している。 B: 現状把握が響かまの両目において高い水準に達している。 C: 現状把握が響ましい水準に達している。 D: 最低とか所のフィールドワークが報告されている。 F: 条件を満たしていない。  発表と発表に対するフィードバック (70%)  発表と発表に対するフィードバックを行っている。(10%) さらに、集8回のルーブリックに基づき加点する。(30%)
オフィスアワー・授業外学習の支援等	
その他・特記事項	

# H班

-T	Ta
項目(★は記入必須)	入力機 大きち物の学
★科目名/授業規模  ★授業概要・ねらい	生き方探究学  この授業は、VUCA社会(不安定・不確実な社会)において生き抜く術を身に付けることを目指しています。 自分の人生という答えのない問題について、グループワークや人生ゲーム演習、学術的な知見・外部講師の講話などを通して多角的に探究できる力を養います。
★学習目標	・現代社会において健康を維持・向上させる方略を見いだすことができる。 ・これからの人生において必要とされるコミュニケーションスキルを身に付けることができる。 ・これまでの自分の生活を振り返り、これからの自分の生き方を多角的に探究することができる。
★授業計画	第1週 イントロダクション (授業の概要説明) 第2週 VUCA社会についての講義 第3週 現状で考える自分のライフデザイン ールボート(2)として提出 第4週 体の健康に関する講義 第50週 やの健康に関する講義 第60週 特別講義 (砂と体の健康に関する良い例・悪い例の経験説) ネ6週 やの健康に関する講義 第6週 特別講義 (砂と体の健康に関する良い例・悪い例の経験説) 本課題へ ストレスチェック、1週間の生活状況の記録 (飲食・睡眠時間など) 第7週 ストレスチェック・1週間の生活状況のが計 (グループ記載) 第8週 自分のライフデザインの共有 第9週 人生ゲーム演習のガイタンス (作り方・注意点などの解説) 第10週 人生ゲーム演習のガイタンス (作り方・注意点などの解説) 第10週 人生ゲーム演習のガイタンス (作り方・注意点などの解説) 第10週 人生ゲーム演習のガイタンス (作り方・注意点などの解説) 第13週 人生ゲーム演習のガイタンス (作り方・注意点などの解説) 第13週 大生ゲーム演習のガイタンス (作り方・注意点などの解説) 第15週 人生ゲーム演習 (グループでロールプレイ) 第13週 大生ゲーム演習 (グループでロールプレイ) 第13週 大生ゲーム演習 (グループでロールプレイ) 第13週 大生ゲーム演習 (グリンボート③として提出) ※人生ゲーム演習 ボードゲームの「人生ゲーム」のマスに、実際に起こりうる (コミュニケーションが必要な) レポート①に基づいたシチュエーションの項目を作り、ロールプレイを行ってコミュニケーションスキルを高めることを目的とした演習。 〈例〉 ・PCヴィルス感染による観客情報の流出時の対応 ・子状が高熱・大けが時の大調問コミュニケーション ・告白・プロボーズ時のコミュニケーション
教材・教科書等	
授業以外の学習	
★成績評価の方法	レポートによる評価とグループワークの相互評価・出席点で成績評価を行う。
★成績評価の基準	<ul> <li>レポートの評価基準(レポート①は評価の対象とはしない)</li> <li>レポート②: グループワークで得られた改善策が現実的・医学的に適切な対応かどうか。</li> <li>レポート③: レポート①の問題点はどこだったのか、理論的述べられているかどうか、新しい気づきがあったかどうか。</li> <li>グループワークの評価基準</li> <li>イろ以上出席すること。</li> <li>グループ内評価: グループワークに参加して、どのくらい発言できたか。</li> <li>グループ問評価: 人生ゲームが多角的な視点を盛り込んだ内容になっているかどうか。(投票による)</li> </ul>
オフィスアワー・授業外学習の支援等	
その他・特記事項	